

平成 27 年 9 月 24 日

各 位

会社名 国際石油開発帝石株式会社  
代表者名 代表取締役社長 北村 俊昭  
(コード番号 1605 東証第一部)  
問合せ先 広報・IR エグゼクティブマネージャー 橘高 公久  
電話番号 03-5572-0233

オーストラリア イクシス LNG プロジェクト  
沖合生産・処理施設 (CPF) の進水について

国際石油開発帝石株式会社 (以下、当社) は、オーストラリア連邦で操業主体 (オペレーター) としてプロジェクトパートナーとともにイクシス LNG プロジェクト (以下、本プロジェクト) の開発作業を進めておりますが、本年9月19日に本プロジェクトの主要施設の一つである沖合生産・処理施設 (以下、CPF: Central Processing Facility) が建造地の韓国ゴジェのドライドックから進水しましたので、お知らせいたします。



沖合生産・処理施設 (CPF) の進水

# 国際石油開発帝石株式会社

## INPEX CORPORATION

CPF は本プロジェクトを支える中枢施設の一つとしてイクシスガス・コンデンセート田の洋上に設置され、生産井を通じて生産した生産物を気体と液体に分離処理します。

CPF の建造工事は 2013 年 1 月より進められており、CPF の土台となるハルブロックの組立て作業や世界各地で製造された主要機器を上載機器として CPF に据え付ける作業が完了したため、この度 CPF が進水しました。当社は、引き続きその他機器や作業員の居住施設の据え付け等を行い、その後 CPF を韓国ゴジェからオーストラリア連邦西豪州沖合に位置するイクシスガス・コンデンセート田まで約 5,600 キロメートルの距離を曳航し、洋上に係留する予定です。当社は、今後も安全最優先に CPF の試運転・本格操業に向けた建造作業を鋭意進めてまいります。

当社は、本プロジェクトに関係する地域コミュニティの方々、連邦政府、西豪州政府および北部準州政府等のオーストラリアの関係者やプロジェクト関係者の方々のご理解とご協力を得ながら、このプロジェクトの成功に向けて引き続きまい進する所存です。

以上

### イクシス LNG プロジェクト

イクシス LNG プロジェクトは、当社が操業主体（オペレーター、参加権益比率：62.245%）としてトータル社（同：30%）、台湾中油（CPC、同：2.625%）、東京ガス（同：1.575%）、大阪ガス（同：1.2%）、関西電力（同：1.2%）、中部電力（同：0.735%）及び東邦ガス（同：0.42%）と共に、オーストラリア連邦西豪州沖合に位置するイクシスガス・コンデンセート田より産出される天然ガスを、オーストラリア連邦北部準州のダーウィンに建設する陸上ガス液化プラントにて液化し、年間 890 万トンの LNG 及び年間 160 万トンの LPG として生産・出荷すると共に、沖合生産・貯油出荷施設（FPSO）などから日量約 10 万バレル（ピーク時）のコンデンセートを生産・出荷する計画です。本プロジェクトは、40 年という長期にわたって稼働が見込まれる世界的にも大規模な LNG プロジェクトです。当社は、1998 年の公開入札により本プロジェクトが位置する鉱区の探鉱権を取得、その後の探鉱・評価作業や基本設計作業などの開発検討作業を経て 2012 年 1 月に最終投資決定しました。